

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
山形医療技術 専門学校	平成7年1月4日	梶原賢	〒990-2352 山形県山形市大字前明石字水下 367番地 (電話) 023-645-1123			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人諏訪学園	昭和55年12月1日	澤村禎三	〒990-0033 山形県山形市諏訪町1-1-13 (電話) 023-642-1249			
目 的	学校教育法に基づき、理学療法士及び作業療法士を志望する者に対し、専門の教育を行い、有能な人材を育成することを目的とする。(学則第1条)					
分 野	課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	専門課程	理学療法学科	4年(昼)	3600時間 104単位	—	平成17年 文部科学大臣 告示第170号
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		60単位	15単位	—	27単位	2単位
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人		161人		7人	15人	23人
学期制度	■前期：4月1日から9月30日まで ■後期：10月1日から3月31日まで			成績評価	■成績表 (有)・無 ■成績評価の基準・方法について 定期試験の結果及び平常成績を 総合判定する。 優・・・80点以上 良・・・70点～80点 可・・・60点～70点 不可・・・60点未満	
長期休み	■学年始め：4月1日から4月7日まで ■夏 季：7月25日から8月31日まで ■期 末：9月26日から9月30日まで ■冬 季：12月25日から1月7日まで ■学 年 末：3月25日から3月31日まで			卒業・進級条件	卒業：全科目単位取得していること。 卒業試験に合格していること。 進級：全科目単位取得。各科目の 総合判定でで以上を合格とする。	
生徒指導	■クラス担任制 有 ■長期欠席者への指導等の対応 本人、保護者との面談等を行う。 教員間の連携を図り対応する。			課外活動	■課外活動の種類 自治会活動(スポーツ大会、 花笠まつり参加等) ボランティア活動 ■サークル活動 無	

主な就職先	<p>■主な就職先、業界 病院、施設、介護老人保健施設等</p> <p>■就職率 100%</p> <p>卒業者に占める就職者の割合 100%</p> <p>平成29年4月1日現在</p> <p>「就職率」は、就職希望者に占める就職者の割合とする。</p> <p>「就職率」における「就職希望者」は「進学」「留年」「資格取得」などの者を含まない。</p>	主な資格・検定	理学療法士
中途退学の現状	<p>■中途退学者10名 ■中退率6.1%</p> <p>平成29年4月 1日在学者164名（平成29年4月入学者を含む）</p> <p>平成29年3月31日在学者153名（平成29年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、学業不振等</p> <p>■中退防止のための取組 担任による個人面談等を定期的に行う。保護者との連絡を密にする。 教員間の連携をとり、成績不振者の個人指導を行う。</p>		
ホームページ	URL: http://www.ymisn.ac.jp		

1. 教育課程の編成

（教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針）

企業等で必要とされる知識、技術、姿勢を十分に把握し、企業等の要請を受けるべく実践的かつ専門的な教育になるようにする。

特に実践的教育の場である実習先との事前、実習中、事後の指導者会議、ヒアリングアンケート等を実施し、教育課程編成委員会において活用するよう取り組む。

（教育課程編成委員会等の全委員の名簿）

平成 29 年 4 月 1 日現在

名 前	所 属
梶原賢	校長
杉原敏道	教育部長
古内慶弘	教務課長
長沼誠	理学療法学科長
鈴木竜平	作業療法学科長
武田貴好	教育部主任
（外部委員）	
菊地和博	東北文教大学短期大学部 特任教授
渡辺貴之	笠原整形外科 理学療法士
西堀陽輔	山形徳洲会病院 作業療法士
奥山哲	Body care salon mizizi 代表 理学療法士

（開催日時）

第1回 平成29年5月17日 13:00～15:00

第2回 平成29年11月中旬開催予定

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

厚労省の定める臨床実習施設の要件にあった病院・施設で実習を行う(承認を受けた病院・施設)。
各学年の学習進捗状況に合わせ見学実習、評価実習、治療実習を行う。

科目名	科目概要	連携企業等
理学療法概論実習	①理学療法業務の見聞と理解を通して理学療法対象者のイメージをつくる 以上を目的として、担当理学療法士の指導の下、実習を行う。	介護老人保健施設、特別養護老人ホーム他 連携企業総数 13 施設
クリニカルクラークシップ	① 理学療法対象疾患の動作の特徴や生活障害のイメージを獲得する。 ② 理学療法業務(情報収集、評価、運動療法、物理療法、ADL アプローチなど)を体験し、具体的なイメージを獲得する。 ③ 症例を通し理学療法プロセスの一連の流れを確認する。 以上を目的として、担当理学療法士の指導の下、実習を行う。	病院、クリニック他 連携企業総数 31 施設
理学療法評価技術実習	①社会人として適切な行動ができる。 ②適切な情報収集ができる。 ③適切な評価ができる。 ④実施した内容を記録・報告できる。 以上を目的として、病院またはクリニックにおいて担当理学療法士の指導の下、実習を行う。	病院、クリニック他 連携企業総数 45 施設
理学療法診断学実習	①社会人として適切な行動ができる。 ②各疾患・理学療法対象者に応じて適切な理学療法評価が実施できる。 ③各疾患・理学療法対象者に応じて障害構造が把握し、問題点の抽出、ゴール、理学療法アプローチが設定できる。 ④実施した内容を記録・報告できる。 以上を目的として、病院またはクリニックにおいて担当理学療法士の指導の下、実習を行う。	病院、クリニック他 連携企業総数 45 施設
臨床理学療法実習Ⅰ	①疾患や理学療法対象者に応じて適切な理学療法評価が実施できる。 ②疾患・理学療法対象者に応じて障害構造を把握し、ゴール、理学療法アプローチが設定できる。 ③疾患・理学療法対象者に応じてリスクを考慮し理学療法アプローチを実施できる。 ④理学療法対象者の変化に応じ、再評価が実施でき、ゴール、理学療法アプローチを変更できる。 以上を目的として、病院またはクリニックにおいて担当理学療法士の指導の下、実習を行う。	病院、クリニック他 連携企業総数 36 施設。
臨床理学療法実習Ⅱ	①疾患や理学療法対象者に応じて適切な理学療法評価が実施できる。 ②疾患・理学療法対象者に応じて障害構造を把握し、ゴール、理学療法アプローチが設定できる。 ③疾患・理学療法対象者に応じてリスクを考慮し理学療法アプローチを実施できる。	病院、クリニック他 連携企業総数 36 施設

④理学療法対象者の変化に応じ、再評価が実施でき、ゴール、理学療法アプローチを変更できる。
 以上を目的として、病院またはクリニックにおいて担当理学療法士の指導の下、実習を行う。

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教員の資質向上を図るため、学会、研修会等に参加し見識を深め、担当科目の専門性をより深める。また、病院、施設等に赴き臨床現場の現状を把握するとともに、実技に関する技術の向上を図る。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名 前	所 属
梶原賢	校長
杉原敏道	教育部長
磯部佳宏	総務部長
古内慶弘	教務課長
長沼誠	理学療法学科長
鈴木竜平	作業療法学科長
武田貴好	教育部主任
(外部委員)	
菊地和博	東北文教大学短期大学部 特任教授
早坂奈緒子	篠田総合病院 理学療法士
沼沢和宏	至誠堂総合病院 作業療法士
飯塚力	サンワ機器 代表取締役

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.ymisn.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.ymisn.ac.jp>

授業科目等の概要

分類			授業科目	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			統計学	理学療法領域における研究の必要性を理解し、研究活動に必要な基本的統計手法を理解する。	3 前期	30	2	○		
○			情報処理技術論	理学療法業務に用いるパソコン理論、ワード・エクセル・パワーポイントの活用法をマスターして、情報処理能力を高める。	1 通期	60	2		○	
○			情報科学	理学療法を施行するうえでの必要な情報の種類と質について理解する。情報には誤差が存在し、その上での情報の利用の仕方を理解する。	1 前期	30	2	○		
○			保健体育	健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。集団活動を通し、お互いを尊重し、協調・協力し合う態度を養う。	1 通期	60	2	△		○
○			総合英語Ⅰ	基本構文を理解し、文法に対する総合理解を深める。	1 前期	30	2	○		

○			総合英語Ⅱ	Reading を通して考えながら文を読み、訳をつけるだけではなく「思考する」力を養う。	1 後期	30	2	○		
○			医学英語	Lo-medical（医師以外の医療従事者）の特にリハビリテーションに焦点を当てた英語の学習、コミュニケーション能力を養う。	2 前期	30	2	○		
○			基礎解剖生理学	人間の営みを支える人体の構造と働きをわかりやすく、感動的に学習する。人体のもつ、働き（機能）を分類し、理解する。人体および各器官の形態的特徴を理解する。人体構造（解剖学）と人体機能（生理学）のつながりを理解する。専門用語を身につける。	1 前期	90	3	○		
○			運動機能解剖学	人体解剖学の中の「運動器」を中心に習得する。骨・関節・筋の基本的構造（形態）および部位ごとの特徴について学ぶ。また、形態から関節運動や動作を想像し、運動機能との関連を理解する。	1 後期	30	1	○		
○			神経解剖生理学	神経系の解剖学的構造および生理学的作用について理解する。	1 後期	30	1	○		
○			内臓解剖生理学	循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・内分泌系の解剖学的構造および生理学的作用について理解する。	1 後期	30	1	○		
○			体表解剖学	体表から骨、人体、筋、腱、神経、血管を触診できる。	1 後期	45	1	○		

○			解剖学見学実習	学内で履修したヒトの構造を実際に確認し、抽象的イメージを具体的イメージに変換する。	1 後期	45	1		○	○
○			生理学実習	中枢神経系の階層性について理解する。呼吸循環の機能について理解する。	1 後期	45	1		○	
○			運動学Ⅰ	運動学を学ぶ意義を説明することができる。関節の運動方向を説明することができる。筋の起始・停止を説明することができる。関節運動を起こす筋を説明することができる。年齢と発達課題についてについて理解する。運動学習についてについて理解する。	1 後期	60	2	○		
○			運動学Ⅱ	動作分析を行うことができる。正常動作に必要な要素についてについて理解する。	1 後期	45	1		○	
○			人間発達学	人間の各段階における発達課題を理解する。また、発達課題の達成度をはかる教育を習得し、リハビリテーションの評価・治療に応用できるようにする。	1 後期	30	1	○		
○			病理学	病気の成り立ち・仕組みを理解し、併せて症状、経過、転帰についてについて理解する。	2 前期	30	1	○		
○			臨床心理学	患者と接する時に身につけるべき態度や傾聴など患者に対応する時の具体的な技法を修得する。	2 前期	30	1	○		
○			整形外科学	整形外科疾患の特徴、治療、対応等について理解する。	2 通期	60	2	○		

○			内科学	内科疾患の特徴、治療、対応等について理解する。	2 通期	60	2	○		
○			神経内科学	神経内科諸疾患の特徴、治療、対応等について理解する。	2 通期	60	2	○		
○			精神医学	精神医学の歴史、様々な精神疾患の特徴、治療、対応等について理解する。	2 後期	30	1	○		
○			小児科学	発育期の小児の疾病・障害を理解する。	2 後期	30	1	○		
○			老年医学	老年期疾患の病態、検査、治療について理解する。	2 前期	30	1	○		
○			一般臨床医学	医療従事者としての一般臨床医学の基礎的な常識を理解する。	2 前期	30	1	○		
○			リハビリテーション概論	理学療法にかかわるリハビリテーションの概論を理解する。	1 前期	30	1	○		
○			関連法規	理学療法に関連する法規を説明できる。理学療法に関連する各法規について理解する。	4 前期	30	1	○		

○			理学療法概論	理学療法士の意義・役割を確認し職務内容の概略を理解する。	1 前期	60	2	○		
○			理学療法概論実習	理学療法業務の見聞と理解を通して理学療法対象者のイメージを確立する。	1 前期	45	1		○	○
○			基礎理学療法論Ⅰ	理学療法の基礎となる解剖学・生理学・運動学分野の総合的に理解する。	1 前期	30	1	○		
○			基礎理学療法論Ⅱ	解剖・生理と病態をからめ、その有した障害による運動・活動制限について理解する。	2 後期	30	1	○		
○			基礎理学療法論Ⅲ	理学療法（診断・治療）と基礎医学の融合を図る。	3 前期	30	1	○		
○			病態運動学	各疾患で発生する特徴的・病的運動を理解する。	2 通期	60	2	○		
○			理学療法研究法	理学療法領域における研究活動の一連の過程を体験する。	4 前期	45	1		○	

○			理学療法評価総論	理学療法評価の全体像をおおまかに理解する。	2 前期	30	1	○		
○			理学療法評価学演習	理学療法評価に必要な検査・測定技術を身につける。	2 後期	90	2		○	
○			理学療法診断学	理学療法診断を実践するための基礎的能力を修得する。	3 前期	30	1	○		
○			理学療法診断学演習	症例検討を通じて実際の診断能力を修得する。	3 前期	90	2		○	
○			運動療法学	理学療法における運動療法の役割、運動が身体に与える影響、各運動療法の適応や禁忌について理解する。	2 前期	30	1	○		
○			運動療法技術論	種々の疾患に対する運動療法の適応について理解し、適切な手技を選択し実施することができる。	2 後期	90	2		○	
○			物理療法学	各物理療法の理論、適応や禁忌について理解する。	2 通期	60	2	○		

○			物理療法技術論	理学療法対象者に各物理療法が選択・実施できる。	3 前期	45	1	○	
○			ADL 総論	理学療法における ADL の位置付け、評価ポイント、指導について理解する。	2 後期	60	2	○	
○			ADL 技術論	理学療法対象者の ADL が模倣・評価・指導ができる。	3 前期	90	2	○	
○			発展的理学療法論	理学療法領域における研究の必要性について理解する。	3 前期	30	1	○	
○			装具学	装具の原理、特徴、適応について理解する。	2 後期	60	2	○	
○			義肢学	義肢の原理、特徴、適応について理解する。	3 前期	30	1	○	
○			医療理学療法学	理学療法の対象となる疾患の急性期から回復期における一連の理学療法行為について学び、対象疾患ごとの適切な理学療法評価（診断）、問題点の抽出・ゴール設定・理学療法プログラム立案について理解する。	3 後期	90	3	○	
○			医療理学療法学演習	理学療法の対象となる疾患の急性期から回復期における一連の理学療法行為について学び、対象疾患ごとに適切な理学療法評価（診断）、問題点の抽出・ゴール設定・理学療法プログラム立案を行う。	3 後期	45	1	○	

○			保健福祉理学療法学	保健・福祉領域における理学療法士の役割を理解する。	3 後期	30	1	○		
○			保健福祉理学療法学習	保健・福祉領域における理学療法を理解し、対象疾患ごとに適切な理学療法評価（診断）、問題点の抽出・ゴール設定・理学療法プログラム立案を行う。	3 後期	45	1		○	
○			継時的理学療法論	理学療法の対象疾患が発症からエンドポイントまでどのような経過を経るか、各時期においてどのような典型的問題が発生し、それに対してどのような理学療法を提供すべきかについて理解する。	3 前期	90	3	○		
○			ケアクラークシップ	対象者の生活上の障害や問題を感じ取るとともに福祉領域で関わる職種および学内学習の意義・目的の理解を深める。	1 前期	45	1		○	○
○			クリニカルクラークシップ	対象者の生活上の障害や問題を考えるとともに医療領域で関わる理学療法の実践および学内学習の意義・目的の理解を深める。	2 前期	90	2		○	○

○			理学療法評価技術実習	理学療法評価にかかわる各検査・測定技術を臨床の場において実践する。	3 後期	90	2		○	○
○			理学療法診断学実習	理学療法診断の一連の過程（情報収集・問題の特定・目標設定・治療プランの立案）を臨床の場において実践する。	3 後期	180	4		○	○
○			臨床理学療法実習Ⅰ	理学療法対象者に対して評価、障害構造の把握、ゴール、プログラム立案、理学療法アプローチを臨床の場において実践する。	4 前期	360	8		○	○
○			臨床理学療法実習Ⅱ	理学療法対象者に対して評価、障害構造の把握、ゴール、プログラム立案、理学療法アプローチを臨床の場において実践する。	後期	360	8		○	○

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(1) 卒業試験に合格していること	1 学年の学期区分	2 期
(2) 在学期間が 4 年以上 8 年以内であること		1 学期の授業期間
(3) 卒業期までに授業料等を全額納入していること 卒業試験の受験資格は、教育課程の全教科について合格した者とする		